

仙台市下水道マスタープラン(中間案)に対する 意見の概要と本市の考え方について

※文中に記載のあるページ番号は、中間案のページ番号です。

※「No.」に網掛けのある項目は、最終案への反映を予定しています。

1. 全体に関する意見(7件)

(1/2)

No.	意見の概要	本市の考え方
1	<p>現行マスタープランは、平成12年策定の「仙台市下水道基本計画」の基本指標を踏襲しているが、その後30年経過しており、自然・社会環境等の変化により、人口や計画汚水量などに差異が生じていると推察されることから、基本指標を再考してみてもどうか。</p> <p>また、「p.5 1-3 対象事業」のあとに1-4として「基本指標」を入れていただきたい。</p>	<p>平成12年度に策定した仙台市下水道基本計画は、平成27年度に策定した現行マスタープランと同様に本市下水道事業の最上位計画です。</p> <p>仙台市下水道基本計画では、本市下水道事業の目指すべき方向性や施策、基本指標等を掲載していましたが、現行マスタープランでは、市民の方々によりわかりやすく説明するため、内容を事業の方向性や施策等に限定し、本マスタープラン(中間案)においても、同様の内容としております。</p> <p>人口等の基本指標については、平成27年度に検証・見直しを行っており、また、次期マスタープラン策定に合わせて、今年度においても検証・見直しを行っているところです。</p>
2	<p>現行マスタープランの振り返りについては、マスタープランに基づいて実施した前期及び後期の仙台市下水道事業中期経営計画をベースに議論する必要がある。</p> <p>これら2つの計画で示した目標と実績を一覧表にして、資料として添付し、「p.14 2-4 前マスタープランの振り返り」がデータに裏付けされたものであることを市民に説明する必要がある。</p>	<p>具体の事業や目標は、マスタープランの実施計画である仙台市下水道事業中期経営計画で管理することとしており、事業の実績や目標の達成状況については「仙台市下水道事業中期経営計画進捗レポート」として、本市ホームページで公表してまいります。</p>
3	<p>「p.39 5-2 中期経営計画による進行管理」において、「国が進める事業マネジメントの考え方」を入れる必要があるのか。現行マスタープランのように「下水道マスタープランと中期経営計画による仙台市下水道事業の推進をAMシステムにより進行管理することにより基本理念の実現を目指す。」という考え方でよい。</p> <p>p.39に現行マスタープランの図「AMシステムによる下水道マスタープランと中期経営計画の推進」を載せてはどうか。</p>	<p>（この項目は、最終案への反映を予定しています。）</p>

No.	意見の概要	本市の考え方
4	コラムに、仙台市のアセットマネジメントの取り組みやその成果等について載せてはどうか。	アセットマネジメントに基づいて実施した取り組みの成果は、本市ホームページの「仙台市下水道事業中期経営計画進捗レポート」にて公表しております。
5	仙台市の合流・汚水管のコンクリート系管渠の目標耐用年数は 89 年とされており、最低でも年間 1.12%の改善率が必要となるが、平成 28 年度から令和5年度の8年間平均でも 0.165%と他の大都市と比較しても最下位グループに甘んじている。アセットマネジメント手法を導入するのなら、効率的・効果的な投資も必要ではないか。	本市下水道事業では、アセットマネジメント手法を取り入れ、使用できる管はなるべく長く使用できるよう、下水道管の劣化状況を把握しながら対策が必要となる管を計画的かつ効率的に改築してきたところです。 引き続きアセットマネジメントに基づき適切に改築を進めてまいります。今後、高度経済成長期以降に整備した多くの管が老朽化していくことから、令和 8 年度からの仙台市下水道事業中期経営計画では、改築の事業量を増やしていく考えです。
6	取り組み事例ごとの重要度・緊急度・優先順位を評価してほしい。限られた予算の中で効率的に事業を推進し、効果を発現することを期待する。	本市下水道事業では、アセットマネジメントの手法を用いて事業の優先度を判断し、限られた予算で最大限の効果が発揮できるよう事業を進めてまいりました。 引き続き、アセットマネジメントの考えに基づき、効率的かつ効果的な事業運営に努めてまいります。
7	下水道事業会計が発端となった仙台市の事務手続きの不適切事例に対して「研修」等で済ませている事例が多く見受けられる。「研修」が悪いと言っているのではなく、組織統治といった観点から再考すべきでは。一例として ISO26000 を参考にしてみてもどうか。	本市では、全庁を挙げた実効性ある内部統制体制を構築し、これを適切に運用していくことで、質の高い市役所経営を進めております。

2. マスタープランの振り返り等に関する意見(3件)

No.	意見の概要	本市の考え方
8	p.17 の課題等にある「合流式下水道改善事業は、完了しました。」という文言を「国の補助事業としての合流式下水道改善事業は完了しました。」とした方がいい。	本市の合流式下水道改善事業は、同事業に関する国の補助事業を活用しておらず、下水道法施行令で定められた基準を満たす施設整備が完了したことから、本マスタープラン(中間案)では、原文のままいたします。

No.	意見の概要	本市の考え方
9	官民連携は維持管理のみではなく、施設の建設や更新及び維持管理全般で実施されているので、p.13 の表1を書き換える必要がある。	本マスタープラン(中間案)の表1については、社会情勢の変化として、近年、国が新たな取り組みとして進めているウォーターPPP を説明したものとしております。 なお、官民連携については、本マスタープラン(中間案)の「p.34 施策6 持続可能な経営の推進」に位置付けており、施設の建設や維持管理など様々な場面で検討してまいります。
10	p.12 の図 11 は下水道における温室効果ガス排出量を示しているが、この前に市全体の温室効果ガス排出量の円グラフがあった方がいい。	いただいたご意見を踏まえ、本マスタープラン(中間案)の「p.12 2-3-3 脱炭素社会の実現への貢献」の図 11 に本市事務事業における温室効果ガス排出量(エネルギー由来)のグラフを記載します。

3. 基本方針や施策等に関する意見(10件)

No.	意見の概要	本市の考え方
11	「四ツ谷用水」が令和7年度入学以降の中学生が使用する社会科(歴史的分野)の教科書に採用され、仙台市においても使用されていることを「p.23 コラム1」に付け加えてはどうか。	いただいたご意見を踏まえ、本マスタープラン(中間案)の「p.23 コラム1 四ツ谷用水にはじまる仙台の下水道」に四ツ谷用水が教科書に掲載されている旨を記載します。
12	ゲリラ豪雨による、特に市内中心部の雨水の排水を早急に行って欲しい。	仙台駅西口地区の浸水被害軽減のため、令和2年度より雨水幹線の整備などを行っております。加えて、効果的な雨水排水施設整備や内水ハザードマップの作成等の被害軽減に向けた取り組みを組み合わせることで、引き続き浸水対策を推進してまいります。
13	p.29に「浸水シミュレーションの活用により、計画降雨に対して20cm以上の浸水解消を目指し、段階的な施設整備を行うことで、浸水リスクの早期低減を目指します。」とあるが、「雨水排水施設の整備が遅れている地区については、浸水シミュレーションの活用により、計画降雨に対して20cm以上の浸水解消を目指し、段階(暫定)的な施設整備を行うことで、浸水リスクの早期低減を目指します。」としてはどうか。	浸水対策の実施には、多くの費用と時間を要することから、整備を実施する地区において、段階的な施設整備により浸水リスクの早期低減を図ることとしております。 併せて、市民の方々に浸水への備えを促すなど浸水被害を減少させる効果的な取り組みを進めてまいります。

No.	意見の概要	本市の考え方
14	<p>仙台市は杜の都であり、下水道マスタープランの上位計画に「杜の都環境プラン」も捉えており、グリーンインフラに対する取組みを加えてはどうか。</p>	<p>本マスタープラン(中間案)の「p.29 施策2 浸水対策の推進」において、下水道事業だけでなく、あらゆる関係者と協働して流域治水の取組みを推進することとしており、グリーンインフラによる雨水流出抑制の取組みについても、関係部署と連携し検討してまいります。</p>
15	<p>「p.27 施策の推進にあたり考慮すべき事項」に「第3回国連防災会議」のなかの「2015 下水道防災シンポジウム in 仙台」で取りまとめた仙台下水道防災宣言を加えてはどうか。下水道での東日本大震災の経験値をマスタープランにも生かすべきではないか。</p>	<p>いただいたご意見の趣旨を踏まえ、本マスタープラン(中間案)の「p.31 施策3 地震対策の推進」において、東日本大震災から得られた経験を踏まえる旨を記載します。</p>
16	<p>p.32 の「脱炭素社会の実現」の優先順位は低くてよい。</p>	<p>本市は、法令に基づき、仙台市地球温暖化対策推進計画を策定しており、温室効果ガスの削減に係る中期及び長期目標を定めております。そのため、下水道事業においても本マスタープラン(中間案)に「脱炭素社会の実現」に向けた取組みを位置づけ、積極的に取り組んでまいります。</p>
17	<p>汚水管渠での浸入水(不明水)対策を加えてはどうか。</p>	<p>雨天時浸入水対策は、本マスタープラン(中間案)の「p.33 施策5 水環境負荷の低減」に記載しております。</p>
18	<p>p.17 の合流式下水道改善事業の課題に「今後は、市域全体での目標設定から各水域のニーズに応じた分かりやすい評価指標と具体的な目標の設定を通して、水域の目標に応じた合流式下水道の対策等を強化し、水環境の創出に寄与していく」等の文言を付け加えた方がいい。</p>	<p>合流式下水道改善事業は完了しましたが、今後も施設の再構築を行う際などには、公共用水域の水質改善に配慮してまいります。</p>
19	<p>同等のコストでありながら改築時期をより先延ばしにできる長寿命なマンホール蓋がある。新技術を積極的・面的に採用してはどうか。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、本マスタープラン(中間案)の「p.34 施策6 持続可能な経営の推進」において、「新技術の活用」について記載します。</p>
20	<p>仙台市は大学等への研究フィールドの提供を実施しているが、下水道スタートアップ企業への研究フィールドの提供とその技術の活用を加えてはどうか。</p>	<p>本マスタープラン(中間案)の「p.36 施策7 お客さま満足の向上と関係者の連携強化」において、関係者との協働・連携を推進することとしており、大学のみならず民間企業から提案があった際には、積極的に対応してまいります。</p>

4. その他の意見(5 件)

(1/1)

No.	意見の概要	本市の考え方
21	限られた予算、人員の中で日々下水道施設の維持管理をしていることに感謝する。	引き続き、下水道機能の適正な維持に努めてまいります。
22	下水道法改正により下水汚泥の資源利用が努力義務化されたが、利活用に際しては、事業規模により販路や価格などで大きな差異が生ずる可能性があるため、小規模自治体の経営に悪影響を及ぼさぬよう配慮する必要がある。	いただいたご意見については、今後の事業の参考にさせていただきます。
23	汚泥堆肥を利用した地域物産の創出。北九州市の日本酒は好評のようだ。私の自宅の家庭菜園は、佐賀市の汚泥堆肥を利用している。	下水汚泥の資源利用に関するご意見として承ります。
24	雨天時における合流式下水道から河川への放流に関する関係団体との協定は、今後も継続するのか。	関係団体と協議の上、適切に対応してまいります。
25	<p>リスク管理項目として「サイバー攻撃」や「大規模停電」への対策も必要ではないか。</p> <p>昨今、外国から多くのサイバー攻撃を受けており、これにより施設機能や電力供給が停止する可能性が懸念される。</p>	サイバー攻撃につきましては、本市が保有する情報資産に関するセキュリティ対策について取りまとめた「仙台市行政情報セキュリティポリシー」に基づき、適切に対応してまいります。また、大規模停電につきましては、各浄化センター等に整備した非常用自家発電設備等の運転により、対応してまいります。